

会議録

会議の名称	第1回加東市東条地域小中一貫教育推進協議会
開催日時	平成27年10月28日(水) 19時00分から21時05分まで
開催場所	東条中学校 2階 図書室
<p>議長の氏名 (委員長 石田和伸)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p>【出席委員】 9人</p> <p>岸本耕一委員 小林和也委員 水野英樹委員 近藤光浩委員 藤原尚弘委員 前田一委員 眞海秀成委員 藤原正幸委員 山本健造委員</p> <p>【欠席委員】 4人 (うち代理出席2人)</p> <p>石田和伸委員 岸本強 (代理出席: 岸本美智代) 委員 辻田昇司 (代理出席: 福田史江) 委員 上月浩忠委員</p>	
<p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p>【教育委員】</p> <p>藤本洋二教育委員長職務代行者</p>	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>教育長 藤本謙造 教育部長 堀内千稔 教育総務課 課長 大橋博英 同 副課長 柴崎俊之 同 主幹 山本幸平 学校教育課 課長 登光広 同 副課長 平川真也 同 主幹 藤原良二</p>	
<p>議題、会議結果、会議の経過及び資料名</p> <p>【議題】</p> <p>(1) 委員長、副委員長の選出について (2) 加東市の小中一貫教育について (3) 今後の活動内容について (4) その他</p>	
<p>【会議結果】</p> <p>(1) 委員長に石田和伸委員、副委員長に眞海秀成委員を選出しました。 (2) 資料③から⑦に基づき、事務局から説明を行いました。 (3) 先進地視察について、審議しました。 (4) 意見交換を行いました。</p>	

【会議の経過】

1 開会

2 教育長挨拶・自己紹介

3 委員長、副委員長の選出について

委員長に石田委員、副委員長に眞海委員を選出

4 報告

(1) 加東市の小中一貫教育について

事務局から資料③～⑦に基づき、事務局から説明を行いました。

(副委員長)

ありがとうございました。

私は5回、研究会に出ておりました、このような話を何回も聞いている私の認識と皆さんの認識が違うかなと思うのですが、何か御質問等ありませんか。

私は、研究会に参加させてもらいまして、やはり学校は地域と一緒に一体となっ
てつくっていかねばいけないということが大事だと思います。なぜ、そんなこ
とを言うのかということでは、14年前に保育園にかかわってきて、それから9年
ほど前に小学校のPTAの役員としてかかわってきた状況の中で、今の小学校の保
護者の方といろいろ話をしたときに、いろんな要素があって変わってきているとい
うようなことを感じています。それで思い返してみたら、保育園の運営のこと
について、地域のお父さん、お母さん、またおじいちゃん、おばあちゃんが本当に
積極的にかかわられて、それが中学校よりも小学校、小学校より保育園と、これは
後でわかったんですけども、保育園のとき、すごいなと感じました。それが今、
なかなか難しいというような話も地域の若い世代の親から聞きます。過去がいいと
かという話ではなくて、私自身は危機感、大丈夫なのかというようなこともあって、
そういう地域とのつながり、連携がないとなかなかこれからの子育ては難しいだろ
うなということを思います。

特にないですか。

(委員)

現段階の小学校のPTAの方々は、なかなかこういった問題、いきなり新聞上で
見て、ストーリーがないから、すごくアレルギー反応を起こしたり、仲たがいになっ
てきたら、それこそ小中一貫がありきで、地域のコミュニティみたいなものがなく
なってしまうような気がするんです。だから、資料5みたいなこういった資料を
せっかく目に見えたものがあるのだったら、そういう情報を提供するような場とい
うのを考えられているのですか。

(事務局)

あわせて後から整理をさせていただきますので、御意見なり、御質問をいただい
たら。

(委員)

ちょっと副委員長と逆ですが、特に東条東の地区に関しては昔よりも今のほうが

地域の方々とかなり密にいろんなことで関わっていただいていますし、十分な協力はしてもらっていると思っています。昔よりも今のほうがやりにくいということは全然感じないですね。逆に、委員と同じで将来的に小中一貫をやったときに、結局これが崩れる側のほうが少しあるんです。

(委員)

今回ここに上げられている今後の課題等は、おそらく今に始まったことではなく、以前から基本的に子どもが抱えているような学習意欲だとか考える力、表現力、思いやりの心を育むとか、必要なことは実際変わっていないのかなと思っています。ここに上げられているコンセプトはよく理解してはいますし、そうかなと思っていますのですけれども、具体的にこの小中一貫になって、例えばですけれども、もう他の市でいろいろうまくいっているところでされているというふうにあがっていますが、実際、小中一貫教育でどのような効果が子どもの教育にあったのかというところ、具体例をいくつか挙げていただくと、もう少しこちらとしてもイメージが湧くのかなと、もし可能でしたらまたいつか紹介いただけたら。

(副委員長)

他にないですか。

それでは、ないようですので、事務局からお願いできますか。

(事務局)

それでは、広報とか、あるいは住民周知という話で、実は私ども行政ですので、例えば教育委員会で議決できていないこと、議会で決まっていなかったことを教育委員会として出すことはできません。研究会のほうでも意見をいただいて、研究会の要旨も入れて、確かにこうしなければうまくいかないというようなことも落とし込んでつくったもので、現時点ではもう出せる状態ですので、今お話があったように例えば市の広報であったり、ホームページにはもう載せているのですが、なかなか見られませんよね。そういったことで、例えば学校だよりで御協力いただくとか、ただこれ大きいので、どのようにうまく広報しようかなと思うんですけれども、各学校の校長先生方等の御意見いただいて、何とか最低でも保護者に示せるように努力していきたいと思います。貴重な御意見をありがとうございます。

2点目と3点目の御意見ですけど、これは表裏一体かなと思っておったのですが、うまくいかないほうの不安が大きいとおっしゃっていたのですが、具体的にはどんなところが不安ですか。

(委員)

例えば、今、もう小学校単位でいろいろ地域とのつながりがあるんですけれども、小中一貫になれば中学校地域になりますね。いろいろ地域でやっていることがありますが、そういうことが全部一緒になったときに地域の方々はどう関わってきたらよいのかというのが、なかなか難しいかなという不安も少しあります。

(事務局)

子どもの側ではなくて、支える側の地域の協力、どうつくっていくかということですね。

(委員)

時間が経てば、ついてくるところもあるんだろうと思うのですが。

(事務局)

モデルにしているところがたくさんあるのですが、要はうまくいっていて、それぞれその学校がその時々抱えている課題がこういう形で解決したというところで、大体5年ぐらい経てば、その学校というのははっきりしているんです。私どもがモデルにしている学校の中の一つに、たくさん地域が一緒になって広い校区になったということに関して、高松第一というところで、PTAの研修で小学校のP

TAの会長さんがおっしゃっていたように、一緒になっても、子どもは大事だから捨てない。最初は大人同士が割とわだかまっていた、大人ですから確かに何年間かはかかる。ただし、子どもと一緒に交流しだして一つの行事をやっていったら、もう二、三年たったり五、六年たったりとか、ある程度の時期になれば、子ども中心に考えていますのでそれは解決できますということはよく聞きました。ただ、実際問題、会長さんの言葉で、地域住民に聞いたわけじゃないですが。

(委員)

規模も違うでしょ。校区の範囲が、加東市と。

(事務局)

そうですね。こういう規模の市で、加東市が目指しているような小中一貫校をつくるという市は、全国的になかなかないんです。うまくいっていない理由の中で、通学距離が10キロとか20キロをバスに乗ってという話はよくあります。普通にやる形は、小学校が3校あったとしたら、2校を廃校して、1校に合併させる。結局、これは吸収なんです。まさしく統廃合です。だから、1校の子どもたちは変わらないわけで、そこへ廃校となった2校の子どもたちが来るんですよね。だから、この子どもたちは最初は、言い方が悪いですが、「おじゃまします」で来るわけです。そうしたら、地域も「おじゃまします」です。加東市が目指しているのはそうではなくて、ちょうど真ん中の中学校があるところで小中一貫教育をするため、そこに新たな学校を建てるという、新たな校区をつくって、新たな学校づくりをするから、みんなが一緒になってくれる。それは、例えば高松であったり、京都であったりも一緒です。校区が全てなくなって、新たな学校ができることによって、みんなが最初から、一からスタートできる。それで、学校の教育活動をスタートからつくっていく。例えば極端な話、先ほど言いました吸収合併であったら、教育活動というのは合併した学校が基本、ベースになります。そこによかったところを入れていくといっても、なかなかここが理解できない。新たな学校であれば、みんながこういったことはよかった、こういう地域でよかった、そうしたらこういうやり方でしょう、でも今年うまくいかなかったら、来年、あのやり方を一度やってみようとか、要はPTAも一緒につくっていけるといようなところで、私どもがいろいろ調べているところでは、加東市のような校区が広いところで、新たな学校をつくってというのは全国的にはほぼないです。だから、加東市は本当に、なかなか特異なことといいますか、全国に先駆けるようなことをやるんだなど。地域が狭い都市部というのは割とあるのですが、そのうまくいった具体例というのは私どもがいくら言葉で言ってもあまりピンとこないと思います。いろんな学校に行きましたが、うまくいっている学校といてない学校は、明らかにうまくいっているところは子どもも先生もやる気になります、本当に。何かデメリットはありますか、うまくいかなかったことがありますかと聞いても、うまくいかないことはあるけれども、何年か頑張っていたら全部うまくいく、だから頑張っていると。それはやっぱり見ていただかなければ、私もやっていないものを口からでは言えないと思います。この後、そういった提案があるのではないかと思いますので、これぐらいで終わらせていただこうと思います。

(副委員長)

ありがとうございました。委員の話の中に私の発言に対する話があり、ちょっと私も言葉足らずでしたので、補足させてもらいたいと思います。要は、今がどうのこうのということではなく、将来が不安であるということなんですね。教育委員会からもありましたように本当にもう「超」がつくぐらい少子化が進んでいっています。実際、私のいる村、地域は、私達の子どもの小学校に入ったころは10人近くいましたが、高学年の5、6年生が出ていくと、ほとんどいなくなってしまう。そ

んな東条西校区、そんな課題、そんな状況がある中、役員の改選なんかでも将来どうなっていくのか。やっぱり分母が少なくなってきたときに大変だろうなというところもいろいろと考えられる中で、地域で子どもを育てていくにはそれなりの支える人間がいないと無理なんだろうなというのがちょっとありますので、それが将来、不安なところですよ。ちょっとそういうことを言いたかったということで、御理解いただけましたらと。

それでは、5番の協議事項、今後の活動内容についてということで、お願いしたいと思います。

5 協 議

(1) 今後の活動内容について

(副委員長)

ただいま事務局から先進校の視察についてということで提案がありました。研究会でも先進校のほうへ行ってきました。今、教育委員会から説明がありましたように、みんなで百聞は一見にしかずじゃないですけども、どういう状況なのか、いいも悪いもやっぱり見に行く必要はあるのかなというようには思っています。実際、誰も、やっぱりイメージが湧かないと、例えばこういうところ物を言おうとしてもなかなか言えないですね。先生方も別のところへ見に行かれたりとか、PTAの研修会のときは高松のほうから来ていただいて、スライドで紹介していただいたりとか、いろんな形でその現状を知るということは大事と思っていまして、私も実際は1校見ましたけど、もうちょっと見たいなというような思いはあります。そんな形でどうですか。特に意見はございませんか。

(委員)

行くのであれば、できるだけこの条件と近いところを見に行きたいと思えます。あまりうまくいっているところばかり見たくないの、問題点のあるところにも行きたいなという感じはあります。

(副委員長)

それでは、事務局からそのあたりを。何回も行かれていますので、事務局は。

(事務局)

それでは、事務局案として提示させていただきます。今、うまくいっていないところもという話ですが、うまくいっていない学校に「うまくいっていないですか」とは聞けないので。私どもが理想としている学校を今から御紹介するのですが、相手先も受け入れがありますし、当然子どもがいなければ何を見に行くかわかりませんよね。滝野でも昨日話をしまして、視察に行こうということになりました。社地域でもそういった御提案をさせてもらって、行こうということになると思うのですが、受け入れ先に例えば3回お願いしますと言えないので、今から申し上げる学校と日とは確約をとれています。今から申し上げる日の2つのうちどちらかに御参加いただけたらなと思って、もう勝手に直近のところとっております。11月13日の金曜日、または11月16日の月曜日、どちらも京都市内です。中国道に乗って行って、高松に本当は行きたいのですが、行って、帰ってきたら一日終わってしまうということで、京都であれば、往復で4、5時間で戻ってこれて、その後の御意見を伺う会もできるなと思っております。まず、11月13日は京都市の凌風学園ということで確約をとれています。教育委員会とか事務局で行かせていただいたところで、ここは新たな学校をつくって、特に生徒指導上の課題の解決が大きかったところです。子どもたちの、例えば精神的安定とかということとは異年齢交流の行

事であったりとか、意図的にそういった自尊感情を高めるような教育活動をされています。16日月曜日は、東山開晴館という学校です。これは、市内の教頭先生方が自主研修で行かれています。お仕事をされている中で非常に申し訳ないなと思いますので、代理の方の参加でも結構です。

移動距離とか日程で、京都市になってしまったんですけども、いずれの学校も教員も見てきて、確かに教員の目で見ても、これはといいとはっきりわかったところですので、そういったところで行っていただきたいなと思っております。

(副委員長)

私も研究会で堺市へ行ったのですが、実は京都へ行きたかったんです。京都は昔から竈金の精神で地域の子どもは地域で育てることができていて、それぞれの御家庭に子どもがなくても、竈の数に応じて学校の先生であるとか運営費を出して地域で育てるというようなことを事前に予習したりする中で行きたかったなと思っていたところですよ。また、皆さんもそんな視点でね。

次に、その他ということで、全般を通じてでも何か意見がございますか。教育委員会から先に言うことないですか。

(2) その他

(事務局)

それでは、この後、もし御意見がないようでしたら、各保護者会から代表で来ていただいていますので、今、小中一貫校についてPR不足というようなお話もお聞きしましたが、例えばこんなことが話題になっているとか、全くなっていないとかというような保護者会の内容とか、PTAの情報を教えていただけたら、私どもが今後取り組んでいくのにも参考になるかなとも思っています。そういったことをお聞きしたいです。それと、先ほど加東市の実態に合ったような学校に行きたいということで、説明の中で少し言ったので省かせていただきましたが、要は加東市のような人口規模と面積で新たな学校を建てて小中一貫教育に取り組んでいるところは本当にはないんです。統廃合はたくさんありますが、だから、先ほど言ったように新たな学校で、新たな地域をつくっていくという私たちが目指しているというのは、都市だろうが郡部だろうが関係なくて、そういった教育活動で子どもをつくっていくということですが、これは立地条件の話ではないですので、今申し上げた私どもが理想とする学校へ見に行っていたらいいなということですよ。

(委員)

先ほど委員が西小学校と一緒にになったら、あまり意思の疎通が親同士、うまくいかないという話があったと思うんですけど、今、さくら保育園と秋津保育園は、運動会をしたり、夏祭りをしたりとか、いろいろな形で交流させてもらっているところなので、そのままの流れでうまく小学校に行けば、委員が心配されているようなことはちょっとは少なくなるのではないかなと思うんです。実際の話、小学校に入ってしまうと関わりがなくなってしまうのは今の実態だと思いますので、小学校間の交流であったりとかという形で、今の仲がいいというか、ずっと触れ合っているいろいろな活動させてもらっている流れをうまく小学校のほうへ持っていったらいいなと思いますので、その辺も教育委員会の方にちょっとやっていただければなど、ちょっと今思ったので発言させてもらいました。

(副委員長)

ちょっとそのことについて、東条西と東条東にそれぞれ少年野球のチームが2チームあったんです。やはりこれは合併しないとという状況にあって、結果として

は今そのときの話し合いで1つになった。そのときの当時の監督と懇意にさせてもらっていますけれども、その合併をする前に非常に熱く語られました。今、教育委員会の説明があったように吸収ではなく、一緒に合併する、これが大切と。ちょっと私はそこまでレベルが達してなかったんです。今こういう話にかかわって行って、ああ、すごい、やっぱり監督ってやっぱり違うなと思って、後から感じているところなんです。その日は、いいこと言っているなというふうな感じしかなかったんです。そういう経験がありまして、今、教育委員会のほうが言われたように何かそういう、今日も西小学校の保護者の方からも私聞いております。やっぱりその中で本当に小学校のほうで、児童が減っていつている。東のほうは区画整理が今3つ目ということ、減ることはあまり想定はできない。西はなかなか家が建たないとか、やっぱり流出していく。そんなときにやっぱり、皆さん親御さんたちまではどうかかわらないですけども、やっぱりそういうことが私は何か、吸収合併じゃなくて、いい意味での合併をしてほしいなというのがありますね。

(委員)

保護者の意見ですが、一応、小学校でPTAの役員会でも聞かれたのは、率直なところ、加東市は小中一貫教育を推進しているけれども、正直今どうなっているんですかというのを保護者の人は皆思っているらしいです。説明会もあったんですが、いまいちわかっていない人が多い。今もこういう資料を見せていただいているんですが、例えば今、西小学校のほうはどんどん子どもの人口が減っている、東小学校は逆に今ちょっと増えているんですね。南山の加減で増えていると思うのですが。だから東小学校の保護者の方はこういう数のことに関しては危機感を持っている家庭はいないと思うんです。それで、だから余計に小中一貫ということ、例えば人数が減っているからやるというふうな感じで思っておられると、東小学校の保護者の方は、そういうことであつたら別に小中一貫教育なんかしなくても、東と西を一緒にくっつけたらいいのではないかという人が結構多いです。だから、小中一貫をやるのであれば、小中一貫教育というものをもっと説明していかないといけないと思うんですね。そうでないと、なぜ小中一貫にしないといけないのかという人が大半です。アンケートもありましたが、わからないというところがすごく多いんです。本当の意味で理解されていないというところは、ずっとこれから5年ないしそれ以上もかかると思いますが、そういうことを言っていけばいいと思うんです。それと小中一貫校が建ったところで、やっぱり小学生の親というのは、やっぱり自分の子どもは関係ない、6年先であれば自分の子は関係ないという親が結構いるんです。意外とそういう、もっと楽観的に、もう全然関係ないというふうに思っている方が多い。でも、そこでやはり教育の現場にいる親として今そういうことを決定づけるこの時期の親だから、もっと小中一貫のことを考えてくださいねというふうなことを文章で書かせていただきました。だから、そういうふうに言っても、親がどれぐらいの意識でいられるかという感じはあります。特に東小学校は低いと思います。

(事務局)

今、御意見をいただきましたが、当初はもう少子化だからというようところが先走ってしまって、別に中学校と一緒にならなくてもいいのではないかと。私たちがずっと言っているのは、今の子どもたちの教育のシステムが少子化も伴っているんですけども、教育のシステムが6年、3年の完結型ではおさまらなくなっており、だからこの機にやるのであれば9年間の教育をしたい、そのタイミングが今言っていました新たな学校を建てるタイミングが一番できるということです。これを失敗して、ほかでやってしまったら、全国がその流れになったときに、耐用年数がまだ50年ありますから無理ですということになったらいけませんので、要は9

年間続けて子どもを育てるんだということで、今そこまでお話がいただけて、何のための小中一貫なのかということまできて、ちょっとうれしいなど。それはずっとこれから説明していきますので、少子化は当然背景にあります、それだけではないです。小中一貫の意味は全くもっと高いところにあります。ありがとうございます。

(委員)

南山の人の声というのはよく聞こえてくるのですが、小中一貫に関しては通学の距離のことが先行しているような感じでありまして、南山の保護者の方でしたら通学距離が短くなるのでラッキーだな、袴鹿谷や黒谷の人であれば遠くなるというように、結構浅い意見でまとまっているような気がします。もともと東条ではなくて、仕事の関係でここに住んでいるんですけれども、本当に東条は、結構子どもたちも純粋で、素朴で、この地で子育てができてよかったなと思っています。小学校の教育についても現状でいいのではないかという声が結構多いです。だから、平成33年に開校するというので、東条が一番先ということを知って知られて、なぜ東条が一番先なのかという声もあります。平成33年に開校するに当たっていい形で入ってきたらいいんですけれども、ちょうど自分の子どもが重なるので、不安定な感じで始まって、自分の子どもがその真ただ中に置かれるというのは正直なところ、私自身も、ちょっと嫌なところもあります。だから、議論が全然進まなくて、今、この資料を見て莫大なことをいろいろ決めていかないといけないと思うので、例えば平成33年は無理となったら延ばしてもらって、もっと議論を詰めてほしいなという思いもあります。

(副委員長)

そういうふうな現状を今言っていただきましたが、本当に皆さん、現状をいろいろと井戸端会議等で話をされていると思います。地域によっていろいろな課題、現状を言いましたら、私もPTAの役員会でも言っているのですが、それぞれの組織の中で議論して、例えば提案してというのはなかなかできなかったです。そんな中で、いろいろな地域の住民の方々から聞く意見としては、まさしく言われるとおりに、本当に理解ができていない、わかっていないという状況でした。本当に中身ではなくて、例えば明らかに行政に対しての反発とか、例えばなくなることに對する反発とか、例えば東条西は人数が少ないですと言ったら、本当なのかと、そんな現実を本当に知っていらっしやらない中での話というのは非常に残念だと思ったので、情報を何とか広めないで。

(委員)

今から東条西小学校に入学する子どもの保護者の立場から言わせてもらおうと、皆の意見を聞いてちょっとびっくりしました。そんなに興味がないというのか、あまり熱心に思っていないんだなというのが第一の印象です。西は先ほども言われていたとおり子どもの人数がどんどん減っています。来年の1年生は片手でおさまってしまうのではないかというぐらゐの人数になるかもしれないという話が聞こえてくる中で、やっぱり小学校はほかの友達とかいろいろなもまれて成長していてもらいたいと思うので、そのような人数でどうやってもまれるのかというところがすごく不安です。委員が言われたとおり東条の東のほうはすごい人数が増えていくという中で、小学校はそのまま数人で、中学校になったら片や何十人という、こちらは数人で一緒になりますとなったときに、自分の子は大丈夫なんだろうかという不安しかないなので、できれば東条からいち早く進めていただきたい立場にいます。

(副委員長)

いろいろな話はあるけれども、この東条地域で現実に、やっぱり本当にそういう不安がある、大変なんだというところは今も西の保護者の方に言っていたいた

し、自分が今いるところがどうだからというのはちょっと置いて、やっぱり全体でどうできるのだろうかということは考えていかないといけないと私は思ったんですけれども。

ほかに、ないですか。

(委員)

今、保護者会の中でも、そのような意見があるんだなと思ったのですが、自分の地区でもそうなんです。一定の者しか興味がない、関心がないと言えばいいのか。それと、実際に一貫校にするのであれば、このあたりにないようなすばらしい学校をつくっていくべきやないかという意見もあります。具体的にどうするかは難しいと思いますが。

(委員)

私は比較的、今回の取組を、好意的に思っていて、実際、あまり把握しきれていないんですけれども、今の学校の制度、小学校は6年間あるんですね。そもそも今の子どもたちの発達、発育を考えると、あまり合理的じゃないのかなと元々思っていましたので、いつかアメリカみたいに小学校5年で終わりとかですね、そういったふうに日本もなっていくといいなと思っていたので、非常にすばらしい取り組みだなと思っています。今日は具体的にいろいろなコンセプトの話をお聞かせしていただいたんですが、本当に子どもたちにとって必要なものは一番上に書かれている自らの夢に挑む自立した子どもというところで、そもそもなかなか夢というのを描くのが子ども達は非常に難しくなっているんじゃないかと感じています。やっぱり、どんどん子どもの生活であるとか環境面が変わってきていると非常に感じているんです。それで夢を描ける教育はどういうことをしたらいいんだろうなというところがこういうところであって、導入されているのが理想なのかなと思ったんですが、今日、お話を聞いた内容は、どちらかといえばもう手法論に近いと思いますね。どういう形で夢を描けるような力を養っていけるのか、そういうところを是非落とし込んでいただけて、その辺の話をまた聞かせていただけたらというふうに思っています。

(副委員長)

本当に自立とかね、子どもだって自治、何かそういうようなものが大事だと思いますね。

(委員)

本当に西地区と東地区の温度差があるんだなということを実感しました。次に、1年生になる子どもがおり、今1年生で十何人がもう一桁になってしまうという現状で、もう学級運営がどうなっていくのかという不安がすごくあるんです。だから、私は5年後と言わず、もう3年後にでも始めていただきたいという感じなので、何とかこの話をうまくしていきたい。

(委員)

せっぱ詰まっているところと、もうちょっと考えているところと、温度差というのはあるんですけど、やっぱり東地区のほうは特にそうだと思うのですが、余裕がそういうところにあるので、もっと違うところに目が向いていて、東条から先にやりましょうかと、東条が一番になっているのは、要はこの中学校が危険だから、まずこれを下ろしたいと、そういうところから東条が一番に指名されたんですね、確か。

(事務局)

それも一つありました。それと、先ほどの人数の話もありました。

(委員)

でも、人数だと社のほうが複式に入っているところが2校もあるのではないんで

しょうか。

(事務局)

それで、もう一つが先ほど言われました、要は東条中学校危険なところにあるという話も当初はありました。

(委員)

やっぱりそういうところで感情的に一番初めにやるのは何かちょっとお試しですかという感じを持っている方が結構いるんです。それで、もし失敗したときにどうなのかという感じなんですよ。だから、やはり先に行くときの不安がものすごく皆あるんです。それが一つの不安ということと、それとやっぱり東条独特の箱物のことです。まず学校を建てる場所、そこをこれから先、ずっと話していくことだと思うんですが、やはりそこに対してすごく反発があるのはわかるんです。自分も東条に生まれて、育って、感情はすごくわかるので。それで、もっとほかの場所をもうちょっと考えて検討してほしいという感じがあるんです。候補地が上がっていて、全部けられてしまっているのもっと調べてよ、もうちょっと考えてよというふうなものがあると思います。こういうことがクリアされると、もうちょっとスムーズにこの地域も小中一貫をやっているのではないかと。

(副委員長)

今、言われたように2番目で、様子を見るという思考回路になると思うんですけど、私、思い返してみたときに本当に充実した施設で、満たされた環境で本当に教育ができるのかなというのは、子どもが大きくなり感じるようになりました。自分が小学校、中学校のときに他の学校がよく見えました。自分の子どもが生まれて、小さいときは子どものためにという思いがやっぱり強くなり過ぎて、子どものためにこうでないと、ここまでしてあげたい、これは常と思いますが、だんだん大きくなっていけば、それは満たされ過ぎてどうなのかというのは常に感じているわけです。だから極端なことを言いますが、私は学校の運動場の大きさなども荒っぽい言い方すると、どうでもよい。その置かれている環境は皆で議論するのですから、無茶なことにはならない。その置かれた環境の中でどれだけ子どもたちが健やかにか、たくましく、委員が言われたように自立した、自治を形成できる、そういう子どもが育ってほしいなというふうに思うんです。そんなことを思ってきたので、今の若い親御さんに何を言っているのかと怒られるかもしれませんが、私の気持ちの変化は実際はすごくありました。私は、成長過程の中で、理不尽だなというようなことも相当経験しました。やっぱりそういう理不尽があったからというのも自分自身は思っているんです。好んで理不尽にと言いませんけれども。そんなこともないでしょうし。何か社会に出たときに本当に成長して独り立ちできるというようなところをやっぱり大事にしたいというふうに思います。

(委員)

やっぱりPRだと思うんです。というのも、さくら保育園の方にPTA会長として相談を受けたんですが、やっぱりPTAはお互いになりあっていると思いますから、意見を持って持てない部分があるんですよ。だから、西小学校でも今、実際高学年の親と低学年の親はすごく温度差があると思います。もうこのままでよいというような親御さんもおられます。もうやっぱり、せっかくよいことをしているのだから、仲たがいとかね、そういうことのないようにPRをよろしく願います。

(委員)

今、会の大切さというのをつくづく感じました。この会がなかったとしたら、こんな考えを持たれているのではないかなというような予想でしかすぎないことが、会をすることによってそれを知ることができ、わからない部分が見えてくる。小中

一貫教育をするという方向で学校としての立場で物を言わせていただければ、地域に支えられた学校ほど土台がしっかりしたものはないと、強いものはないということはおもうつくづく感じています。地域で支えていただくために、今から山ほどいろんなことが出てくると思うんです。例えばPTAでやっていることが先々どうなるかちょっと心配だというようなことも言われました。確かにそうだと思います。ただ、小中一貫を目指している以上、小学校同士のPTAが寄って、すり合わせる部分がたくさん出てくると思います。それから、小学校と中学校のPTA同士、3つ寄れば小学校、小学校、中学校によってすり合わせる部分、または小学校の教師、中学校の教師、また小学校同士、山ほどあると思うんです。それをひとつずつ乗り越えて、不安が解消されていくのではないかと考えています。

(委員)

いろいろな方々のお考えを聞かせていただいて、いろいろな悩みがあるんだなということをおもいました。ただ、私の思うのは、本当に東条地域というのは非常に地域の力というか、本当にそれに支えられて学校があるということをおもっています。東条東も今、PTAあるいは地域の方々がおもっていただくことで、ここの子どもたちがすくすくと育っています。同じようにほかにも一緒だと思うんです。私たちが経験したことがないような時代を生きていくことになる子どもたちの将来を考えたときに、是非この力をみんなで力を合わせて子どもたちを育てていく方向になれば、すばらしい東条地域の子どもたちができるのではないかなということをおもっています。本当に地域の力はすばらしいということが1点。

もう一つは、私は東山開晴館に行かせていただきました。1回、見に行かれたらいいと思います。私もいろいろ話を聞いていたんですけども、実際に見たら、何とすばらしいこと、施設一体型です。やっぱり一体型はいいなと、併設ではあのようなにはならないだろうとおもいました。一体型で中学生と小学生の子が入り交じって、そしてお互いを思いやっている姿、あるいは先生方が入り交じって、お互いに見合っている姿。みんなで育てているなというのが見たらわかりました。施設は本当にすばらしい。新しく建っているということで、いろんなところに工夫がされています。子どもたちの高さに合わせてとか、やっぱり細かい配慮がすごくされています。それを見てやっぱり子どもたちも育ちます。足りないところは協力を自然にしている姿を目にしました。すばらしいなとおもいました。それから、みんなでクリアしてうまくいこうとして努力をしているということがわかります。だから、やはり先進校視察ということで出ていきましたけれども、見に行くというのは本当に感じる人が多いので、是非この機会に行かれたらいいんじゃないかなとおもいます。そして、決意新たに立場とか意見はいろいろお持ちだと思いますけれども、ここにおられる委員が、聞かれたときに自分の生の声を広めていただくということも大事なのではないかなとおもいました。

(委員)

教育はやっぱり難しいなということをおもっています。今のシステムに難しさがある、行き詰まりがあるということで、ちょっと寂しい気もするんですけども、次の新しい小中一貫というシステムに私は大変興味を持っているんです。どんなふうになっていくのかなということ、先進校へ私自身もまだ行ったことがないので、とても楽しみで、今どちらに行こうかなというふうにおもっているところです。ただ、6年間と3年間を9年間にしただけでは絶対にいいようにはならないというふうにおもっています。とてもいいところには、きっとそれなりに理由があると、一緒にしただけではない、何か理由があるとおもっています。それを見に行きたいというふうにおもって、楽しみにしております。

(副委員長)

ありがとうございました。

皆さんの意見をお聞かせ願ひ、時間も相当経ってしまったんですが、是非ともこれだけはあることがありましたら、言っていただきたいと思うんですけども。

もうないですか。よろしいですか。

それでは、協議の2点を終了させていただき、進行のほうを事務局のほうに返させていただきます。

6 事務連絡

7 閉 会

【資料名】

資料① 加東市小中一貫教育推進協議会設置要綱

資料② 加東市小中一貫教育推進協議会委員名簿

資料③ 小中一貫教育に関するこれまでの経緯

資料④ 加東市小中一貫教育研究会 中間報告書

資料⑤ 加東市のめざす小中一貫教育

資料⑥ 小中一貫教育の推進について

資料⑦ 「加東市公共施設の適正化に関する計画」(一部抜粋)

平成27年12月17日